

ではない」この言葉にどんなに勇気付けられたことでしょうか。本当に勇気付けられました。これはヘレンケラーが言った言葉です。「障害は不便だけれども、不幸ではない」。

もう時間がありませんので、この後色々話そうと思っていたことは割愛しますが、この中に、もしひとりで悩んでいたたり、話す相手がいないとか、そういう人がもしおられましたら、是非仲間を見つけて欲しいのです。現状を理解して、

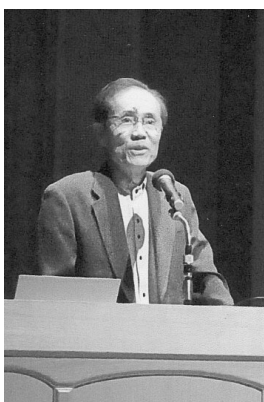
自分がどうあるべきかということを探って欲しいのです。仲間と一緒に。励まされて本当に助けられます。

最後にもう一度、ヘレンケラーの言葉を言いたいと思います。「世の中に苦難は満ちている。然れども克服もまた満ちている」これを最後にしたいと思います。どうもありがとうございました。

## 体験発表②

# 肝臓がんを体験して

篠田 省輔



篠田省輔さん

私は肝臓がんを二度経験しております。不幸中の幸いでありまして、早期発見・早期治療ということで、最新の治療が受けられ、救われました。しかし、いわゆる先生方のおっしゃる言葉では、経過観察中でありまして、今後何が起こるかは予断できません。比較的短期の間隔でエコーやCTで定期的に検査をして頂いております。

おかげ様で今現在は、日常生活は支障がありませんで、ここでこうしてお話ができるような状況でございます。この間多くの先生方や看護師さんに、大変お世話になりました。また、患者会の皆さんからは、大変温かい励ましの言葉をいただきまして、勇気付けられました。この席を借りまして、御礼を申し上げておきたいと思っております。

二度の肝臓がんは経験しましたが、仕事には恵まれておりまして、現在73歳ですが、昨年8月まで、72歳まで仕事を続けることができました。50年間の現役ビジネス生活を、やっと全うすることができました。したがって、これからは私のような患者が発生しないような運動といえますか、活動を是非続けて、少しでも肝臓がんの患者が減るように、いささかの役割を果たしたいと思っています。

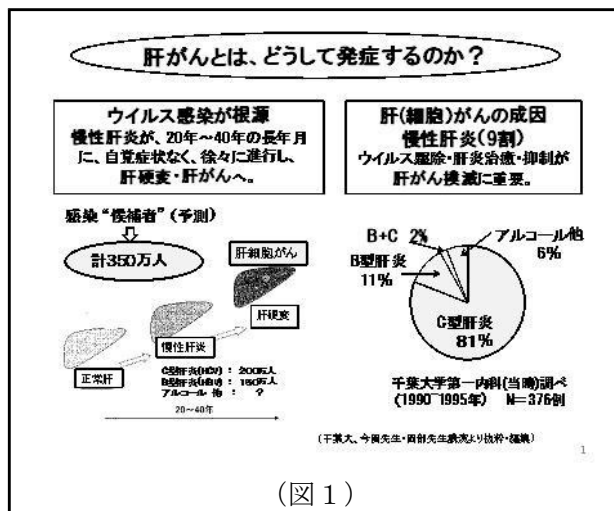
## 肝炎・肝臓がんはどうして発症するのか

図1は市民公開講座の、千葉大の先生方のお話してから、抜粋しまして、私が編集したものです。

肝臓がんとはどうして発症するのか、他のがんと少し違うところがありまして、予め発症が予測される方がかなりたくさんおられるわけです。ここに示されている様に、私のような肝臓がん発症者を調べますと、約80%がC型肝炎患者なのです。B型を含めると、90%になるのです。9割がたの肝細胞がん患者は、このような肝炎患者で占められています。

私がここで言うまでもなく、ウイルスが根本原因であります。そのウイルスに起因する細胞の破壊が、徐々に長年続きまして、全く本人は無症状、あるいは感覚的には健康だと思っている方が、20年、30年、あるいは40年経ちますと、肝臓の繊維化が進みまして、その後肝硬変や肝臓がんになります。振り返ってみますと、私はその典型的なコースを進んできたように思うわけでありまして。

これはここだけではなくて、一般社会全体に申し上げたいのですが、日本でこういう候補者といえますか、患者の予備軍が、350万人というように予測されているのです。C型肝炎が200万人くらいで、B型が150万人くらいと言われ



(図1)

ております。40歳以上で、千葉県では13万から15万人と言われております。

したがって、40歳以上で計算しますと、15人に1人くらいはそういう方だと。ですから、今は健康で肝臓病には関係ないと思われる方も、1回だけはこの検査を受けて頂きたいと思えます。ちなみに、「肝臓の友の会」で受診の促進を推進しているのですが、去年の千葉県の受診率は12.8%、まだまだ低いのです。

(参考：全国平均は10%弱)。

### 肝庇護療法の後、 抗ウイルス療法をためす

私が経験しました25年の治療を、ここで申し上げますと、とても時間がございません。詳しい説明は、時間がありませんので省きます。

これ以前の経過もあるわけですが、この図2のように、2002年頃から2005年まで私のGPT(ALT)が高い値(100前後)となりました。これは肝機能値とよくいわれますが、実は細胞の壊れ方の程度を表している血液検査値なのです。この間、私がおこないました治療は、ウルソとかグリチロンの内服、強ミノ注射とか瀉血とか、肝臓を庇護する方法でした。

これにより、2006年にはGPT値は半減してよかったです喜んでいたのですが、2006年末(図2の⑤番表示)に肝がんが発生し、外科切除をしました。その後、2年間ほど事無く過ぎました

が、昨年、2008年末に2回目の肝がんが発生し、今度はラジオ波焼灼治療をしました。(⑥)

この間、肝細胞の壊れ方を抑えるのが、まずは一番大事だということで、とりあえずあの手この手でGPT値をこの(④→③')のように下げて来たわけですが。今は昨年より始めたインターフェロン治療(抗ウイルス療法)の最中ですが、GPT値は20前後に治まりまして、おかげ様で正常値になっております。

### 肝がん発症とその治療

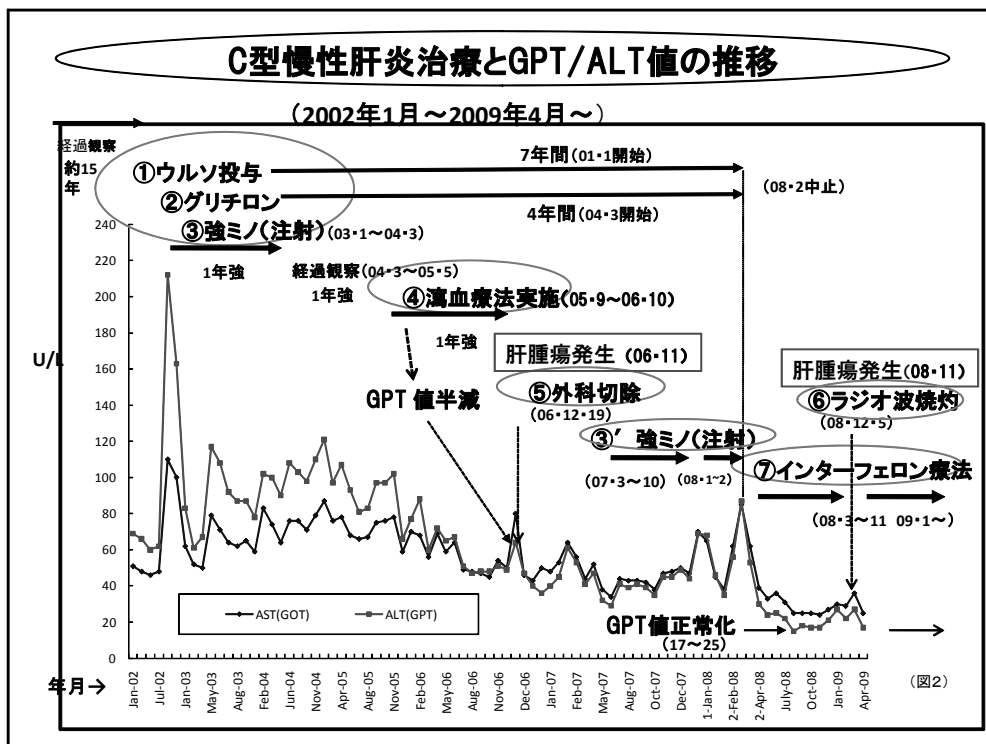
次に肝がんの発症と、その治療につきまして簡単に申し上げます。まず、図3の左側に初回の肝がんの治療について書いてありまして、そのお隣(右側)に2回目について書いてございますが、治療法が違います。これも医療の進歩のおかげだと思っております。

最初に先生から、画像診断によりがんを告知された時は、正直ショックを受けました。しかし、一方で肝炎の背景があるものですから、とうとうやってきたかという思いもありました。早速に治療をしようということで、当時、話題になっていたラジオ波焼灼治療が体に優しいと聞きまして、セカンドオピニオン、サードオピニオンを色々お聞きしましたが、総じて、この場合は外科手術の方がよいとの意見でした。

つまり、それはがんが肝臓の左の方で、裏側にありまして、近くに心臓と胃があると。しかも表面に少し突出している

ので、がんは小さいから処置はしやすいのだが、ラジオ波焼灼には場所が悪いと、三人の先生から、同じことを言われました。よって外科手術をしました。

2回目は経過観察検査の中で分りまして、今度は右側の方の真ん中辺だということで、ラジオ波焼灼治療をやりました。二つの治療を比べて

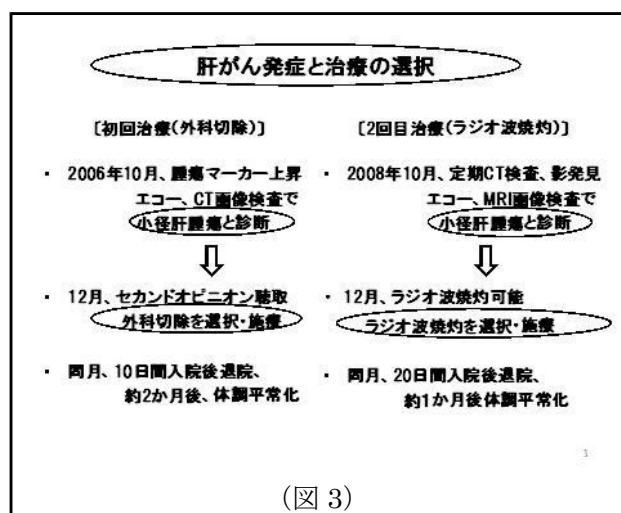


言えますことは、体に対するダメージは、手術の方が厳しく、2～3箇月は苦しい思いをしました。ラジオ波の方は、施療直後は発熱で大変困りましたが、1箇月以内に治まって、かなり体へのダメージは少ないと感じました。

時限が迫っており、あとは割愛しなければならぬのですが、私が体験しましたことで、どうしても医療従事者の方にも、また皆さん方にもお伝えしたいことがございます。それは最初のがんの時の話です。あるがんの医療センターでお世話になったのですが、手術の前に非常に不安でございました。

高齢でもあるし、大丈夫かなと思っておりましたところ、手術の前の日に院長先生がふらっとやって来られまして、「大丈夫ですから、頑張ってください」という一言と、握手をしていただきました。非常に不安な心が急に元気付くといいますか、励まされまして、感激をしました。そういう院長先生もおられるということですから。それは実は千葉の県がんセンターでありまして、当時、3年前ですが、竜先生が院長さんでございました。ここであえてご紹介しておきますが、先生は私だけにされたのではなく、皆さんにされていると思いますが、私は非常に感激して、力が出たということをお知らせしたいと思います。

もうひとつお話ししたいのは、模範的なインフォームドコンセントの話です。私は、一般的には、インフォームドコンセントはまだ充分進んでいないと思っています。しかし、ラジオ波治療の時に、病棟医の先生、外来の先生じゃない若い先生ですが、私が心配してラジオ波で充分“焼け”ましたかと、色々な質問をしたのですが、こと細かに丁寧に、画像のモニターで説明をいただきまして、これも非常に感激しました。すっかり先生のファンになってしまいました。



て、退院してから感謝の手紙を書きました。そういう模範的ケースもあるということをお知らせしておきたいと思います。

## 私の患者心得と医療へのお願い

一般的に医療については、パンフレットに書きました通り、私は少なからず意見も要望も持っておりますが、患者としてもこれらの解決に向かって声を出し、努力することが大変なことと思っております。

この草色の資料の4ページ目、つまり最終の裏ページに、私が感じましたことから出てまいりました自分への心得というか、皆さんへのお願いというか、そういうものが書いてございます。

「私の患者心得6箇条」と、「医師・看護師さんへの4つのお願い」、「肝炎・肝がんの治療制度への3つの要望」ということで纏めました。これを読んでいただければ、大体お分りいただけると思います。

## 患者会について

最後に「千葉肝臓友の会」の活動について簡単に紹介させていただきます。肝臓病の患者会でありまして、いろいろな活動をしております。会報誌の発行、医療講演会・相談会、ウイルス検査の受診促進、電話ピアカウンセリング、医療制度の改善・肝炎法案制定への署名・請願活動、等々です。

再度申し上げますが、全く健康で、自覚症状がない方でも、肝臓は大丈夫と思っておられる方でも、一度もC型肝炎ウイルスの検査をされていない方は、無料でございますので、是非検査をしていただきたいのです。

それから、肝臓病について分らないことが色々あると思いますが、もし疑問を感じられましたら、この「千葉肝臓友の会」に、お電話なりEメールでご連絡下されれば、適切なアドバイスをさし上げるということになっております。今日は時間がありませんので、一部分話を端折りしましたので、もし質問したいことなどがございましたら、一番下に括弧内に表示しました私のメールアドレスに質問いただければ、お答えできると思います。

それでは時間が参りましたので、これで終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。